

华东师范大学

共 4 页

2004 年攻读硕士学位研究生入学试题

考试科目: 基础日语

招生专业:

考生注意:

无论以下试题中是否有答题位置, 均应将答案做在考场另发的答题纸上 (写明题号)。

問題Ⅰ、次の漢字に振り仮名をつけなさい。(15点)

- |         |         |         |
|---------|---------|---------|
| ①相殺 ( ) | ②摂取 ( ) | ③海苔 ( ) |
| ④脈絡 ( ) | ⑤境内 ( ) | ⑥流布 ( ) |
| ⑦萎縮 ( ) | ⑧独断 ( ) | ⑨範疇 ( ) |
| ⑩執着 ( ) |         |         |

問題Ⅱ、次の外来語の意味として適切なものを①～⑩選びなさい。(15点)

- |             |               |
|-------------|---------------|
| ア、イベント ( )  | イ、リハビリ ( )    |
| ウ、パトロール ( ) | エ、パフォーマンス ( ) |
| オ、モニター ( )  | カ、カーブ ( )     |
| キ、リサーチ ( )  | ク、クローズアップ ( ) |
| ケ、フレックス ( ) | コ、モチーフ ( )    |

問題Ⅲ、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(50点)

A 「心のやすらぎ」というのは魅力ある言葉である。心のやすらぐ場所、心のやすらぎを与えてくれる人、それらをだれしも求めているのではなかろうか。その場所にいるだけで、何かほっとした気持ちになる。(1) その人のそばにいと、別に何を話すとか何も無いのだけれど、心がやすらいでくる。(2) 場所とか人とかをもっていると、その人はどんなに幸福であろう。

「やすらぎ」ということを人々が強く求めるのは、日常生活に(3)それが少ないかを意味している。今日、「忙しい」を連発して生きている人がほとんどではなかろうか。そんなことはない、老人たちは何もすることなく生きているではないか、という人もあろう。問題は、その老人たちは、その忙しくない生活のなかで「やすらぎ」を感じているだろうか、ということである。ここに人生の面白さがある。忙しすぎてやすらぎがない、という人がある(4)、何もすることがなくて、やすらぎがない人も結構存在するのである。(5) ともかく人間というものは、仕

事をせずにいればやすらぐとか、暇になればやすらぐなどという単純なものではないことがわかる。

(河合隼雄『対話する人間』による)

問1、( )の中に入れる最も適切なことばを a-dの中から選んで記号で書きなさい。

(10点)

- |   |          |          |          |          |
|---|----------|----------|----------|----------|
| 1 | a. しかし   | b. むしろ   | c. あるいは  | d. やはり   |
| 2 | a. あのような | b. あのように | c. このような | d. このように |
| 3 | a. むしろ   | b. いかにか  | c. 一方で   | d. なぜ    |
| 4 | a. かぎり   | b. ので    | c. から    | d. 反面    |
| 5 | a. たとえば  | b. けれども  | c. したがって | d. それで   |

問2、著者は、どんなときに人間は幸福だと言っていますか。30字以内で簡潔に述べなさい。(10点)

問3、著者は、人生の面白さはどんなところにあると言っていますか。上の文章の中で、それが書かれている部分を見つけ、その部分の最初の5字と最後の5字を書きなさい。(10点)

B 次の文章を読んであとの問いに答えなさい。(20点)

私たちが書物を読むのは、言うまでもなくそれを理解するためである。実際、ていねいに読んでいけば、堅い内容の書物でも理解できるものである。しかし、私だけの経験ではないと思うが、読んでいる間は「なるほど」とか、「そうだ」とか、心の中であいづちを打ちながら、いちいちわかっていくけれども、また( 1 )けれども、肝心の書物の内容は、輪郭のあいまいなもの、とらえどころのないものになってしまう。糸が切れた風船のように空へ消えてしまう。

たしかに書物に忠実な態度でノートをとっておけば、この点は少し救われる。しかし、それでも( 2 )。私の経験では風船を地上につなぎとめておく一つの方法、つまり、内容をじぶんの精神に刻みつけておく一つの方法は、呼んで理解した内容を自分の手で表現するということである。

その実際に、( 3 )が、原稿用紙五枚なり十枚なり——この枚数は最初から決め

ておいた方がよい——に読んだものを書くに限る。書く、といってもノートのように己を空しうして、書物のままに、というのではなく、( 4 )。自分がある程度まで著者になるのである。精神の姿勢が能動的でなければいけない。精神の姿勢が能動的であるのには、原稿用紙の枚数があまり多くない方がよい。枚数が限られていると、否応なしに読んでもものの大部分を思い切って捨てなければならぬ。( 5 )。枚数の制限というのは、精神をノンビリした受動性から苦しい能動性へ追い込むための人工的条件である。

清水幾太郎『論文の書き方』による

問1、( ) に当てはまる文を a~e の中から選び、記号で書きなさい。(10点)

- a 書物の内容や分量も無視するわけにはいかない。
- b 本質的なものを選び取らねばならぬ
- c 長く風船を地上につなぎとめておくことはできない
- d 読み終わった瞬間、一種の空気が心の中に残りはする
- e 自分の精神を通じて、自分自身が書くのである。

問2 次の文章は上の文章を要約したものです。( ) に適切なことばを入れなさい。(10点)

この文章の中で著者は、書物の内容を自らの精神に( 1 )には、読んで理解した内容を( 2 )ことを勧めている。しかも、その際に書く分量を初めから決めておくことが( 3 )だと言っている。それは( 4 )によって、人は否応なく読んだものの大部分を捨てるという( 5 )な選択を迫られるからである。

問題IV 次の空所(1)~(10)の中に、あとにあげた語の中から適当なものを選び入れなさい。(20点)

中世は、新旧文化の交替期であり、伝統的な和歌物語の類は、時代を下るに従って衰退して、新形態の文学が新しく起こった。和歌は、鎌倉初期の( 1 )時代に頂点に達し、その後は衰運に向かい、室町期の親続古今和歌集を最後として勅撰集はたえた。一方、和歌に代わって多数の人々の連作になる( 2 )がおこり、武士僧侶を中心として庶民の間に流行した。伝統的な( 3 )・歴史物語・随筆・紀行など

は、鎌倉期から室町期の初めに至る間に盛んに現れたが、何れも世相を反映し、時代思想を宿している。殊に時代の傾向をよく示しているのは、歴史物語から転生した( 4 ) である。それは戦争を背景とする悲壮な人生を写すと共に、伝統的な情趣主義と ( 5 ) と武士的精神の交錯した、さまざまな情緒を描いている点に、文学的価値が認められる。室町期は( 6 ) の風潮が盛んに起こった時代であって、文学の方面にも著しい新陳代謝が行われた。その著しいものは連歌から派生した( 7 )、通俗短編小説の( 8 ) などである。しかし、後期の新興文学を真に代表するものは、従来の音楽・舞技・文学を総合集成した( 9 ) と平民劇( 10 ) である。

イ 古今集	ロ 金槐集	ハ 連歌	ニ 今様
ホ 擬古物語	ヘ 歌物語	ト 新古今集	チ 新体詩
リ 俳諧之連歌	ヌ 軍記物語	ル 仮名草子	ヲ 出家遁世
ワ 能	カ 無名草子	ヨ 歌舞伎	タ 下克上
レ 狂言	ソ 御伽草子	ツ 無常観	ネ 平曲

問題Ⅴ、次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(50点)

「春一番は俳句の季語として知られる、西高東低の冬型気圧配置に明け暮れていた長い冬がしだいに暖かくなって、低気圧が東シナ海から北東方向に進んできて日本海に入るようになる。そうすると、この低気圧に吸い込まれる南風が本州を横断して強く吹く。この日本海の低気圧がとくに発達すると、この南風は強くなり、日本の各地に張るのあらしをもたらす。日本海岸では、山を越してきた風はフェーン現象によってさらに昇温し乾燥する。山の雪は急にとけ、思わぬ雪どけ洪水を下流にもたらすこともある。乾燥した強風なので、山火事の原因ともなる。

(中略)

安政6年は西暦では1859年だから、まだ歴史は浅い。この後で季語になったとすれば、まだ140年そこそこということになる。そして、ジャーナリズムがその語を使い出したのが1957年ごろで、それ以降、新聞でもラジオでもテレビでもおなじみの言葉となった。日本海に低気圧が入るようになる理由は、冬から春になってきて、それ以前は本州の南岸沿いを東進していたのが、気象現象が全体に北上するためである。したがって、3～4日の周期で、低気圧は日本海へ入るのがふつうだから、南風も3～4日の周期で吹く。」

(吉野政敏著「風と人びと」より一部改変)

問1、春一番とはどのようなことを言っているのか。またこの言葉がよく知られるようになったのはいつ頃からか。

問2、春を題材にして800字以内で文を作りなさい。